

2009年度

新潟大学国際センター 年報

Annual Report
of Niigata University
International Exchange Support Center
2009



宮田 春夫

研究テーマ：環境と開発に関する南北関係

多様な主体が多様な役割を果たす複合的相互依存の国際社会において、環境と開発のための南北関係はどうあるべきか、全地球的レベルから地域共同体レベルまで、また、多国籍間協力、二国間協力を包括的に捉えて、政策のあり方を探っていきたいと考えています。

また、教育においては、理論と現実の両方を見ることにより、理論を現実に即して理解すること、また、対応を理論に基づきつつ現実に即したものとすることができる学生を育てたいと考えています。

所属学会：国際開発学会、環境科学会、International Studies Association

1. 授業

「教養教育に関する科目」及び課題別副専攻「平和学」の授業のほか、農学部、理学部及び現代社会文化研究科の授業も担当しました。

学部レベルで英語で開講している教養教育に関する科目は、短期交換留学プログラム科目としても重複指定されています。そのほかにも、課題別副専攻「平和学」及び「環境学」に指定されている科目があります。

課題別副専攻「平和学」として単独開講している科目の一部は、開発途上国の問題に強い関心を持つ学部生・大学院生のために始めた勉強会を正式な授業としたものです。

本学における担当授業一覧

開講期	授業科目名	備考
春	Applied Research of International Relations: North-South Relations for the Environment and Development	教養教育に関する科目。短期交換留学生用開講科目、課題別副専攻「環境学」科目、課題別副専攻「平和学」科目としても指定。 環境と開発を巡る南北関係に関わる諸課題と政策のあり方。大学院用の内容を、学部生向けの評価方法にして開講。
	国際開発協力演習（環境と開発）	課題別副専攻「平和学」科目。 開発援助と環境の事例について、政府、非政府の援助関係者から直接話を聞く機会をも取り入れて、意図通りまたは真にそれを必要としている人に届く援助の難しさという現実を直視した上で、積極的に評価できる面を評価し、そうでない面についてはどのようにしたら改善できるのかを学生が考える機会を提供。
	国際開発協力論：「開発」概念 I	課題別副専攻「平和学」科目。 OECD 開発局の職員たちが書いた「開発」についての考え方の変遷を紹介した本（英語）を使い、どのようにして「開発」についての認識が深まっていったか、どのような背景の下に各々の開発理論が論じられたか、それぞれの開発理論がどのように開発援助等に影響したか等を論じる。
	自然環境関連法規	農学部専門科目。複数教員分担のうちの条約等に関する 2 コマ他。

秋	Environmental Policy Study: History of Environmental Problems and Development of Policies in Japan	<p>教養教育に関する科目。短期交換留学生用開講科目としても指定。</p> <p>明治から現在に至る日本の環境問題の歴史と政策の展開を見ながら、どのような環境問題の変化、社会の変化、国際関係により環境政策が変わって来たのかを論じる。</p>
	国際開発協力論：「開発」概念 II	<p>課題別副専攻「平和学」科目。</p> <p>「改革派」とされる考え方の流れを汲む Amartya Sen が「Development as Freedom」（英語原著）で整理した「開発」の幅広い概念を学ぶ。</p>
	North-South Relations for the Environment and Development	<p>現代社会文化研究科。</p> <p>環境と開発を巡る南北関係に関わる諸課題と政策のあり方。</p>
	人類共同体のための国際環境政策学	<p>教養教育に関する科目。</p> <p>どうして環境に関する国際協力を行うかに重点を置いて、背景の国際秩序の課題、「持続可能な開発」の本来の意味、「地球環境問題」と捉える無意識の課題認識、「持続可能な開発」の状況を示すエコロジカルフットプリント、国際協力の歴史等の基礎について論じた上で、多国間協力、条約、ODA 等の個別課題について論考。</p>
	環境政策論	<p>理学部自然環境科学科専門科目。</p> <p>明治から現在に至る日本の環境問題の歴史と政策の展開。背景の社会情勢等を詳しく論じる Environmental issues in Japan よりも政策課題を詳しく論じることに重点。</p>
	平和を考える in 新潟	<p>教養教育に関する科目。課題別副専攻「平和学」科目としても指定。</p> <p>複数の教員や外部講師の講義による授業の1コマを担当し、「開発途上「国民国家」の外と中の秩序」と題して、「民族」や「宗教」によるものと思われている紛争の問題について論考。</p>
	平和学総合演習	<p>課題別副専攻「平和学」科目。</p> <p>副専攻修了認定予定学生に対する論文指導、そのための調査の指導、手配等を実施。調査に関しては、「構造的暴力」に着目した平和学の授業を行っている立命館宇治高校の森口教諭に対する聞き取り調査にも同行した。</p>
集中講義	開発途上国の環境と開発：事例研究	<p>教養教育に関する科目。課題別副専攻「平和学」指定科目。</p> <p>一種の集中講義として、9月の2週間のマダガスカル現地調査を中心に開講の予定であったが、条件が整わないことにより2009年度は実施を断念。</p>

以上のほかに、正式な開講教員として登録されていませんが、課題別副専攻「平和学」科目である「平和学入門」（春学期）のうち4コマ（「南北問題・人間開発」及び「環境問題」）は、私の専門に関わる内容であったため、担当教員と共同で講義しました。

2. 課題別副専攻「平和学」

2008年12月から課題別副専攻「平和学」委員会に参加しましたが、2009年4月からは、他大学に転出した教授に代わって、同委員会の代表を務めています（副専攻自体は大学の教育課程に位置づけた明確な制度ですが、各副専攻の委員はボランティアです。）。この立場から、課題別副専攻「平和学」の修了ペーパーの指導、審査、非常勤講師との連絡・調整、副専攻の運営の調整、管理等を行いました。また、平和学の主要課題のうち、これまでの開講科目では欠けていた安全保障論の講師を発掘し、2010年度からの開講を実現しました。

8月26-28日に新潟市内で開催された国連軍縮会議（各国の軍縮担当大使、軍縮研究者等が個人資格で軍縮について意見交換する毎年の会議）に際し、平和・軍縮関連の教育を行っている新潟県立大学、新潟国際情報大学、敬和学園大学及び本学が、8月28日の同会議参加者代表と学生との意見交換会に参加するとともに、26-28日の会議そのものを傍聴することになりました。そのため、これら4大学が共同で5月から8月にかけて、JR新潟駅前にある本学のサテライト・キャンパスを会場に、学生の事前勉強会等を行いました。私は、本学の担当教員として、全体の諸準備、勉強会の運営や学生に対する指導・助言、本学学生だけの勉強会等に従事しました。

その結果、オバマ米国大統領の核兵器廃絶演説等により世界的に関心が高まる中、会議参加者からは、学生の傍聴、積極的な行動等を評価する発言が会議の終了時の議論で行われ、また、テレビや新聞でも同様の評価が行われました。また、参加学生のうち、本学の1名が2010年5月のニューヨークでの核拡散防止条約（NPT）再検討会議関連行事にも参加することになり、学生や教員がそのための資金集めを含む諸行動を2009年度終わりにとることとなりました。



4 大学合同勉強会の様子



国連軍縮会議参加者と学生たちとの意見交換会
(8月28日、朱鷺メッセ)



NHK の報道 (テレビニュースのビデオ・キャプチャー)



私は今回の新潟の軍縮会議に参加して(被爆者らの)意見を聞き、若者への被爆体験の継承など、市民社会への働きかけの大切さを認識した。

会議に参加した米国代表(大使)に対する朝日新聞のインタビュー記事(8月31日「国際」面)



新潟日報（8月29日）

3. 研究活動

(1) 学会活動

国際開発学会（6月、11月）、International Studies Association（2月）等に参加してコメンテーターを務める等、議論するとともに、国際開発学会の論文の査読を行いました。

(2) フィールド・スタディーに関する研究会

「百聞プラス一見」の力を学生につけさせるべく、授業で知識を得ることに加えて、効果的かつ安全に開発途上国の現場を見る機会を重視しているため、引き続き、「大学教育における海外体験学習研究会」（9月、東洋大学）等に参加し、フィールド・スタディーの更なる効果・充実等の課題に取り組みました。

4. 開発途上国との協力、開発途上国の実情等を知り、同じ人類社会の未来を共有していることを理解するための特別講義等

開発途上国との協力、開発途上国の実情等を知り、同じ人類社会の未来を共有していることを理解するため、実際に協力に従事している方等から講演等して頂いて具体的な知識を得る会

を、一部については課題別副専攻「平和学」の開講科目「国際開発協力演習（環境と開発）」と関連付けつつも、その科目の履修生以外にも開放し、また、特に意義があるものについては学外にも開放して企画・開催しています。多くの場合、テーマは、開発途上国との協力に関心を持っている学生たちの希望を考慮して選定しています。

なお、従来、外部講師の旅費等の経費は私の研究費から負担していましたが、2009年度は、2名の講師のうち1名は私の研究費、もう1名は課題別副専攻「平和学」経費から負担してもらうことができました。

(1) 特別講義「ジンバブエを事例とした「参加型開発」の意義と課題」

6月23日、学生たちの希望する「参加型開発の実際」というテーマで話して頂くにふさわしい壽賀一仁・特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター事務局次長に来て頂き、具体例に基づいて、参加型開発の計画や実施に苦労した面、意義などについて、講義して頂きました。NGOの方に話して頂いた初めての講義でしたが、長く開発協力を携わっている団体の方らしく、理論面を含む議論となりました。

(2) 特別講義「環境保全のための協力の意義と課題—主にベトナムでの経験を事例として—」

6月30日、学生たちの希望するこの講義テーマを設定の上、メキシコ、ベトナム等で環境行政体制強化のための技術協力に従事した山本充弘さん（元千葉県職員）に講義をして頂きました。ベトナムの環境課題とともに、JICA 専門家として開発途上国に派遣されている時に突き当たる諸問題や意義についてもよくわかる講義となりました。

(3) 青年海外協力隊募集説明会の開催

JICAから要請がある一方で、学生の間にも希望があったため、開発途上国の諸課題について学ぶ効果と社会貢献とを兼ねて、10月19日、青年海外協力隊募集説明会を学内で開催しました。参加学生は、法学部、人文学部、経済学部から合計7名でした。本学理学部卒業後にパプア・ニューギニアで理数系教師として青年海外協力隊員であった教員の体験談は、協力隊員の活動だけでなくニューギニア社会が具体的に理解できるもので、好評でした。

(4) 開発途上国関連の助言等

ODA 関連機関・企業、国際機関等、開発途上国関連の職に就きたいとする学生からの相談がしばしば寄せられ、進学先、就職のための諸条件等について助言しています。

6. 多大学間交換留学

アジア・太平洋多大学間交流（University Mobility in Asia and the Pacific：UMAP）のオンライン学生交流システムが正式に動き始めることとなったのを受け、その担当者としてその仕組みを研究した結果、本学でも2010年度受け入れ分から受け入れることとしました。そこで、担当者として、このシステムを利用して本学に交換留学することに関心を持つ韓国、メキシコ等の学生からの照会に対応し、2010年秋に韓国からの学生1名を受け入れることの決定に寄与しました。但し、後に、その学生は、個人的理由によるとして留学を辞退することとなりました。

6. 社会貢献等

(1) マリー・ルイズさん講演への協力

2009年2月のJICAにいがた国際協力ミーティングでのカンベンガ・マリー・ルイズ・特定非営利活動法人ルワンダの教育を考える会副理事長の講演は、大変好評でしたが、参加者数が少なかったことが課題でした。そのため、特定非営利活動法人新潟国際ボランティアセンターに働きかけ、協力して、5月24日、同センター主催により、カンベンガ・マリー・ルイズさんの再度の新潟講演を実現しました。

(2) マダガスカル写真展「マダガスカルに想いをはせて in 新潟」 駐日マダガスカル大使館他と共催

駐日マダガスカル大使館、マダガスカル航空及び新潟国際ボランティアセンターとの共催で、10月30日（金）から11月5日（木）まで本学新駅南キャンパス「ときめいと」で、11月7日（土）・8日（日）に新潟市総合福祉会館での同センター「愛のかけはしバザー」会場内で、マダガスカル写真展「マダガスカルに想いをはせて in 新潟」を開催しました。特に「ときめいと」会場では、観測史上最も早い降雪を含む悪天候のために来場者が少なめでしたが、両会場合わせて300名近い来場者があり、来場者からは、「テレビ等で見るマダガスカルの自然に加えて、マダガスカルに人が生き生きと暮らしていることがよくわかるすばらしい展示であった」、「このような催しを是非また開いて欲しい」等のコメントを頂きました。このように、多面的な紹介により、マダガスカル、ひいては開発途上国について親近感を持って頂くとともに、理解を深めて頂くことができたと考えています。

(3) JICAにいがた国際協力タウンミーティング企画会議への参加

2008年度に引き続き、第8回JICAにいがた国際協力タウンミーティング「新潟の地域おこし、世界の地域おこし」（2月28日）の企画会議ボランティアとして、内容助言、開発協力NGO講師紹介（高橋一馬・元特定非営利活動法人緑のサヘル代表理事）等を行いました。

(4) 仙台市・宮城教育大学「動物園を通して学ぶ生物多様性と持続的な社会」事業検討会への参加

2月14日、仙台市・宮城教育大学共同実施の「動物園を通して学ぶ生物多様性と持続的な社会」事業の一環の「対マダガスカル技術協力に関する事業検討会：今後の対マダガスカル国際教育協力及び技術協力の在り方」においてコメント等を行いました。

7. その他

次のところにウェブサイトを設け、授業についての詳細情報の提供等を行っています。

<http://www.isc.niigata-u.ac.jp/~miyatah/>